

産婦人科学

1 構 成 員

	平成 28 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
病院教授	1 人	
准教授	1 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	2 人	(2 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	4 人	(2 人)
診療助教	3 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	6 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	6 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	6 人	
合計	30 人	

2 教員の異動状況

金山 尚裕（教授）（H11.11.1～現職）
 杉原 一廣（准教授）（H19.3.1～19.3.31 助教授；H19.4.1～現職）
 伊東 宏晃（病院教授）（H20.7.1～H21.3.31 講師；H21.4.1～H22.12.31 准教授；H23.1.1～現職）
 宮部 勇樹（助教）（H17.7.1～19.3.31 助手；H19.4.1～現職）
 村上 浩雄（助教）（H22.4.1～現職）
 田村 直顕（助教）（H22.4.1～現職）
 鈴木 一有（講師）（H19.6.1～H21.9.30 助教；H21.10.1～現職）
 内田 季之（講師）（H21.6.1～H23.4.30 助教；H23.5.1～現職）
 谷口千津子（診療助教）（H22.1.1～H26.3.31 特任助教；H26.4.1～現職）
 古田 直美（診療助教）（H23.12.1～H26.3.31 特任助教；H26.4.1～現職）
 柴田 俊章（助教）（H24.4.1～現職）
 安立 匡志（診療助教）（H26.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 27 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	9 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	25.96	

(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数 (うち邦文のもの)	24 編	(23 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	9 編	(9 編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	2 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Muranatsu-Kato K, Kohmura-Kobayashi Y, Urmi J Ferdous, Tamura N, Yaguchi C, Uchida T, Suzuki K, Hashimoto K, Suganami T, Ogawa Y, Kanayama N: Undernourishment in utero primes hepatic steatosis in adult mice offspring on an obesogenic diet; involvement of endoplasmic reticulum stress. Sci Rep. 19(5): 16867, 2015. 【IF: 5.578】
2. Yamazaki K, Masaki N, Kohmura-Kobayashi Y, Yaguchi C, Hayasaka T, Itoh H, Setou M, Kanayama N: Decrease in Sphingomyelin (d18:1/16:0) in Stem Villi and Phosphatidylcholine (16:0/20:4) in Terminal Villi of Human Term Placentas with Pathohistological Maternal Malperfusion. PLoS One 10(11), 2015. 【IF: 3.234】
3. Nakamura Y, Yaguchi C, Itoh H, Sakamoto R, Kimura T, Furuta N, Uchida T, Tamura N, Suzuki K, Sumimoto K, Matsuda Y, Matsuura T, Nishimura M, Kanayama N: Morphologic characteristics of the placental basal plate in in vitro fertilization pregnancies: a possible association with the amount of bleeding in delivery. Human Pathology. 46(8): 1171–1179, 2015. 【IF: 2.769】
4. Farhana M, Tamura N, Mukai M, Ikuma K, Koumura Y, Furuta N, Yaguchi C, Uchida T, Suzuki K, Sugihara K, Itoh H, Kanayama N: Histological characteristics of the myometrium in the postpartum hemorrhage of unknown etiology: a possible involvement of local immune reactions. J Reprod Immunol. 110: 74-80, 2015. 【IF: 2.815】
5. 金山尚裕: 近赤外線を用いた新しい母児管理 周産期学シンポジウム抄録集 A 33: 37-41, 2015.

インパクトファクターの小計 [14.4]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Naito T, Kubono N, Ishida T, Deguchi S, Sugihara M, Itoh H, Kanayama N, Kawakami J: CYP3A activity based on plasma 4β-hydroxycholesterol during the early postpartum period has an effect on the plasma disposition of amlodipine. Drug Metab Pharmacokinet. 30(6): 419-424, 2015. 【IF: 2.568】

インパクトファクターの小計 [2.57]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Tanaka H, Katsuragi S, Osato K, Hasegawa J, Nakata M, Murakoshi T, Yoshimatsu J, Sekizawa A, Kanayama N, Ishiwata I, Ikeda T: Increase in maternal death-related venous thromboembolism during pregnancy in Japan (2010-2013). Circ J. 79(6):1357-62, 2015. 【IF: 3.940】
2. Hasegawa J, Sekizawa A, Tanaka H, Katsuragi S, Osato K, Murakoshi T, Nakata M, Nakamura M, Yoshimatsu J, Sadahiro T, Kanayama N, Ishiwata I, Kinoshita K, Ikeda T; Maternal Death Exploratory Committee in Japan and the Japan Association of Obstetricians and Gynecologists. Current status of pregnancy-related maternal mortality in Japan: a report from the Maternal Death Exploratory Committee in Japan. BMJ Open. 2016 Mar 21;6 (3):e010304. doi: 10.1136/bmjopen-2015-010304. 【IF:2.271】
3. Tanaka H, Katsuragi S, Osato K, Hasegawa J, Nakata M, Murakoshi T, Yoshimatsu J, Sekizawa A, Kanayama N, Ishiwata I, Ikeda T. The increase in the rate of maternal deaths related to cardiovascular disease in Japan from 1991-1992 to 2010-2012. J Cardiol. 2016 Feb 15. pii: S0914-5087(16)00016-2. 【IF:2.782】

インパクトファクターの小計 [8.99]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 金山尚裕 : 無痛分娩 Up to Date 産科と婦人科 82(5): 1, 2015.
2. 金山尚裕 : 疾患・病態別の周産期救急 : 産科編 羊水塞栓症 周産期医学 45(9): 1271-1275, 2015.
3. 伊東宏晃 : 肥満妊婦の体重管理の考え方 臨床栄養 (臨時増刊号) 127(4): 536-539, 2015.
4. 金山尚裕 : 子宮型羊水塞栓症と凝固線溶・補助系の異常 血液フロンティア 25(10): 71-79, 2015.
5. 杉原一廣 : 胚と子宮内膜との接着・相互作用 HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY 22(3): 39-47, 2015.
6. 金山尚裕 : 医師のあらたな診断ツール、ウェアラブルオキシメーターの開発 医学のあゆみ 255(2): 175-176, 2015.
7. 金山尚裕 : 分娩管理の新機軸 産科と婦人科 82(12): 1, 2015.
8. 内田季之, 金山尚裕 : 内診指接着型オキシメーターによる胎児モニタリングの実際 産科と婦人科 82(12): 1365-1369, 2015.
9. 鈴木一有, 伊東宏晃, 金山尚裕, 矢巻悦子, 鈴木裕昭, 山下豊 : 近赤外線時間分解分光法を用いた分娩時妊婦脳循環モニタリング 産科と婦人科 82(12): 1412-1416, 2015.

10. 金山尚裕, 内田季之, 庭山雅嗣 : 内診指接着型胎児オキシメーターの開発 ペリネイタルケア 35(2): 62-64, 2016.
11. 金山尚裕, 内田季之, 庭山雅嗣 : 内診指接着型胎児オキシメーターの開発 臨床婦人科産科 70(1): 96-104, 2016.
12. 内田季之 : 妊婦貧血 産婦人科処方実践マニュアル 産科と婦人科増刊号 83, 2016.
13. 田村直顕 : 羊水塞栓症、産科 DIC 産科と婦人科増刊号 83, 2016.
14. Itoh H, Kanayama N: Nutritional conditions in early life and risk of non-communicable diseases (NCDs) from the perspective of preemptive medicine in perinatal care. Hypertension Research in Pregnancy. 3: 1-12, 2015.
15. 伊東宏晃 : 胎生期プログラミングと先制医療—周産期医療の立場から—/胎生期プログラミングと先制医療 最新醫學 70(5): 97-104, 2015.
16. 伊東宏晃 : 分娩時の出血に関する対応と事例 助産師 69(3): 8-11, 2015.
17. 伊東宏晃 : 特殊な帝王切開 —常位胎盤早期剥離と子宮破裂への手術— 周産期医学 45(8): 2015-2018, 2015.
18. 伊東宏晃 : 子宮峡部 —妊娠・分娩における役割と病態— 産婦実録 64(12): 1861-1866, 2015.
19. 伊東宏晃 : DOHaD と視床下部 —下垂体—副腎系/特集 DOHaD HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY メディカルレビュー社 22(4): 37-43, 2015.
20. 幸村友季子, 向亜紀, 谷口千津子, 伊東宏晃 : 既往早産印譜の管理 ④抗炎症療法 臨床婦人科産科 70(1): 25-30, 2016.
21. 杉原一廣 : ペプチド創薬 日本エンドメトリオーシス学会会誌 36, 38-40, 2015.

インパクトファクターの小計 [0]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 佐藤徳子, 秋永智永子, 菊池卓, 伊東宏晃, 土井松幸, 金山尚裕, 佐藤重仁 : 産後大量出血に対する子宮圧迫縫合法（B-Lynch 法）の周術期管理 : DIC 発症との関連 麻酔 65(1): 62-67, 2015.

インパクトファクターの小計 [0]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 井村裕夫, 伊東宏晃, 久保田健夫: 先制医療を見据えた胎児期プログラミング (DOHaD) 研究の在り方 特集 胎生期プログラミングと先制医療 最新醫學 70 (5): 7-20, 2015.
2. 住本和博, 交野好子, 金山尚裕: 3 次元 CG による分娩管理教育 産科と婦人科 82(12): 1422-1427, 2015.

インパクトファクターの小計 [0]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 金山尚裕: 羊水塞栓症 止血・血栓ハンドブック 西村書店 326-331, 2015.
2. 内田季之, 金山尚裕: DIC 合併症例の子宮全摘術 OGS now 22 メジカルビュー社 124-131, 2015.
3. 金山尚裕: 103. 分娩後危機的出血において弛緩出血、子宮破裂・子宮内反・羊水塞栓・胎盤遺残などとの鑑別を怠るべからず 周産期診療べからず集 周産期医学 45 増刊号 341-343, 2015.
4. 金山尚裕: 104. 分娩後危機的出血において出血早期からの著しいフィブリノゲン低下で羊水塞栓症を強く疑うことを怠るべからず 周産期診療べからず集 周産期医学 45 増刊号 344-345, 2015.
5. 金山尚裕: 105. 分娩後危機的出血において羊水塞栓症を疑ったら採血を行い、日本産婦人科医学会羊水塞栓症事業に検体を送ることを考慮することを怠るべからず 周産期診療べからず集 周産期医学 45 増刊号 346-347, 2015.
6. 向麻利, 伊東宏晃: 4. 頸管無力症 産科婦人科疾患最新の治療 2016-2018 南江堂 74-75, 2016.
7. 金山尚裕: 13. DIC 産科婦人科疾患最新の治療 2016-2018 南江堂 159-160, 2016.
8. 田村直顕: 14. 羊水塞栓症 産科婦人科疾患最新の治療 2016-2018 南江堂 161-162, 2016.
9. 伊東宏晃: 胎生期から出生後早期における栄養環境と NCD 発症リスクのかかわり: DOHaD 学説の視点から/先制医療実現のための医学研究 井村裕夫, 稲垣暢也編 (実験医学増刊号) 羊土社 32-36, 2015.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. Todo Y, Tamura N, Itoh H, Ikeda T, Kanayama N: Therapeutic application of C1 esterase inhibitor concentrate for clinical amniotic fluid embolism: a case report. Clin Case Rep. 3(7): 673-365, 2015.
 2. 東堂祐介, 村上浩雄, 柏木唯衣, 仲谷傳生, 向麻利, 古田直美, 内田季之, 谷口千津子, 鈴木一有, 伊東宏晃, 金山尚裕: 妊娠 35 週に子宮破裂による腹腔内分娩を来した既往帝王切開妊娠の 1 例 静岡産科婦人科学会雑誌 4: 10-14, 2015.

インパクトファクターの小計 [0]

4 特許等の出願状況

	平成 27 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

（万円未満四捨五入）

	平成 27 年度
（1）科学研究費助成事業（文部科学省、日本学術振興会）	12 件 （2,971 万円）
（2）厚生労働科学研究費	1 件 （100 万円）
（3）日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	2 件 （5,135 万円）
（4）科学技術振興機構(JST) による研究助成	0 件 （0 万円）
（5）他政府機関による研究助成	0 件 （0 万円）
（6）財団助成金	1 件 （200 万円）
（7）受託研究または共同研究	2 件 （100 万円）
（8）奨学寄附金	10 件 （769 万円）

（1）科学研究費助成事業（文部科学省、日本学術振興会）

- 伊東宏晃（代表者） 基盤研究（B）胎生期低栄養が小胞体ストレス応答を介して成人期の脂肪蓄積リスクとなる機序の解析 590 万円（新規）
- 杉原一廣（代表者） 基盤研究（B）糖鎖模倣ペプチド IF7 による腫瘍標的抗癌剤の研究開発 410 万円（新規）
- 金山尚裕（代表者） 基盤研究（B）血管浮腫の観点から見た羊水塞栓症の診断、治療、予知・予防に関する研究 720 万円（新規）
- 柴田俊章（代表者） 基盤研究（C）精子運動の活性化と受精率の改善を目指したトランスレーショナル・リサーチ 150 万円（新規）
- 内田季之（代表者） 基盤研究（C）内診指接着型胎児オキシメーターを用いた新規胎児モニタリング法の開発 140 万円（新規）

杉原一廣（代表者） 挑戦的萌芽研究 婦人科癌の血清診断法の開発研究 60 万円（新規）

内田季之（代表者） 基盤研究（C）妊産婦と胎児環境における亜鉛の重要性と補充療法の有効性の検討 156 万円（継続）

鈴木一有（代表者） 基盤研究（C）近赤外線分光法による母体脳および胎盤の酸素動態モニタリングの臨床応用に向けた検討 214 万円（継続）

伊東宏晃（代表者） 挑戦的萌芽研究 質量顕微鏡法によるヒト胎盤絨毛解析—病態特異的生体高分子マーカー同体を目指して 132 万円（継続）

古田直美（代表者） 若手研究（B）抗コプロプロフィリン抗体を用いた羊水塞栓症の組織学診断および迅速診断法開発の検討 110 万円（継続）

田村直顕（代表者） 基盤研究（C）病理組織学的検討に基づいた羊水塞栓症の診断法と新規治療薬の開発 179 万円（継続）

谷口千津子（代表者） 挑戦的萌芽研究 生殖補助医療が胎盤の構造・機能の変化を介して分娩時出血量に及ぼす影響の解析 110 万円（継続）

（2）厚生労働科学研究費

池田智明（代表者） 周産期医療と他領域との効果的な協働体制に関する研究 100 万円

（3）日本医療研究開発機構（AMED）による研究助成

杉原一廣（代表者） 子宮内膜症に対するペプチド治療薬の探索 5,000 万円

藤井知行（代表者） 母子感染の実態把握および検査・治療に関する研究 135 万円

（6）財団助成金

羊水塞栓症の血清診断事業 財団法人日母日本産科婦人科おぎゃー献金 200 万円（継続）

（7）受託研究または共同研究

杉原一廣（代表者） 血管内皮細胞特異的糖鎖認識受容体の同定 中外製薬（ロッシュグループ）50 万円（新規）

金山尚裕（代表者） 迅速測定キットによる早産マーカー測定の有用性に関する研究（積水メディカル）50 万円

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
（1）特別講演・招待講演回数	0 件	31 件
（2）シンポジウム発表数	0 件	5 件
（3）学会座長回数	1 件	18 件
（4）学会開催回数	0 件	0 件
（5）学会役員等回数	0 件	41 件
（6）一般演題発表数	1 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長

Itoh H: New Zealand - Japan Joint Seminar for DOHaD Epigenetics & Cohort Research February 2-3, 2016 at University of Auckland, NZ.

5) 一般発表

口頭発表

Itoh H: New Zealand - Japan Joint Seminar for DOHaD Epigenetics & Cohort Research February 2-3, 2016 at University of Auckland, NZ “Undernourishment in utero primes hepatic steatosis in adult mice offspring on an obesogenic diet; Involvement of endoplasmic reticulum stress”

(2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名
- 2) 学会における特別講演・招待講演

1. 伊東宏晃: 異所性妊娠／産褥出血 第 67 回日本産科婦人科学会学術講演会 4 月 11 日 横浜
2. 杉原一廣: 子宮頸がん予防ワクチンに関する基本的知識及び最新の知見について ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診療に係わる研修会 4 月 18 日 浜松
3. 伊東宏晃: 産婦人科学分野での教育・研究・臨床における成果と展望 筑波大学 5 月 7 日 つくば市
4. 金山尚裕: 女性の健康と女性ホルモン 静岡県薬剤師会中部支部例会 5 月 20 日 静岡市
5. 金山尚裕: 妊娠に関する凝固異常(分娩時大量出血、羊水塞栓症など) 第 2 回周産期講演会 5 月 28 日 東京都
6. 杉原一廣: ペプチド創薬に関する話題 持田製薬株式会社開発研究所講演会 6 月 15 日 御殿場
7. 伊東宏晃: 抗 SS-A 抗体、抗 SS-B 抗体陽性患者の妊娠と出産 東海シェーグレンシンドロームカンファレンス 6 月 27 日 名古屋
8. 杉原一廣: ペプチド創薬 第 2 回中日本産婦人科セミナー 7 月 4 日 富山
9. 金山尚裕: 羊水塞栓症と産科 DIC 恩賜財団母子愛育会 平成 27 年度周産期医療研修会<医師 A コース:産科編> 8 月 6 日 東京都
10. 金山尚裕: 子宮峡部裂傷と子宮型羊水塞栓症 第 10 回国立循環器病研究センター周産期サマーセミナー 8 月 8 日 大阪府
11. 伊東宏晃: 黒ネズミと戯れて 16 年一胎生期低栄養マウスモデルの開発から見果てぬ夢を追い求めて― 第 3 回新生児指導医教育セミナー 8 月 29 日 仙台
12. 金山尚裕: 羊水塞栓症と産科 DIC 第 68 回中国四国産科婦人科学会総会ならびに学術講演会 9 月 5 日 倉敷
13. 伊東宏晃: 妊婦のエネルギー摂取不足と脂肪肝発症リスク Phizer Endocrinology Forum 2015/ Growth & Metabolism 9 月 12 日 東京

14. 田村直顕：不妊治療について 浜松市薬剤師会学術研究会 9月14日 浜松
15. 金山尚裕：羊水塞栓症の救命法と予知・予防 広島市臨床産婦人科医会研修会 9月24日 広島
16. 金山尚裕：羊水塞栓症の病態と管理 第6回江東豊洲産婦人科懇話会 10月2日 東京
17. 杉原一廣：卵巣がんの紹介と悪性疾患全般に対する我々の取り組み：ペプチド創薬 日本医師会がん検診医師研修会 10月10日 静岡
18. 伊東宏晃：妊婦の感冒様症状 浜松市内科医師会10月例会 10月21日 浜松
19. 杉原一廣：HPV ワクチン 第18回産婦人科・小児科懇話会 10月22日 浜松
20. 伊東宏晃：高安動脈炎患者の妊娠と出産 大動脈炎症群あけぼの会講演会 10月31日 京都
21. 伊東宏晃：産科出血とその対応 日本助産師会産科救急対応強化のための研修会 11月8日 東京
22. 金山尚裕：笑顔で生きるためのよい呼吸、よい環境～産婦人科医の視点から～ 浜松医科大学公開講座2015 11月14日 浜松
23. 金山尚裕：早産予防の新しい視点 第13回周産期新生児感染症研究会 11月19日 神戸
24. 伊東宏晃：妊娠期の感染予防 乳幼児発達指導研修会 12月17日 浜松
25. 金山尚裕：Amniotic Fluid Embolism 日米産科麻酔レビューコース in KAWAGOE 12月5日 川越
26. 伊東宏晃：妊娠期の感染予防 浜松市乳児発達指導研修会 12月17日 浜松
27. 金山尚裕：羊水塞栓症の病態と管理 第136回東海産科婦人科学会 2月13日～14日 岐阜
28. 杉原一廣：ペプチド創薬 新規抗癌剤の創薬 中外製薬(株) 2月26日 鎌倉
29. 田村直顕：羊水塞栓症を知る！ 第4回麻酔科医のための産科麻酔プロフェッショナルセミナー 3月5日 東京
30. 金山尚裕：「女性の健康なんでも相談」～浜医の教授がお答えします～ 女性の健康週間市民公開講座 3月5日 浜松
31. 金山尚裕：早産予防の新しい視点 八千代周産期研究会2016 3月25日 八千代市

3) シンポジウム発表

1. 伊東宏晃：子宮内膜環境と将来のメタボリック症候群—DOHaD の観点から「妊婦のエネルギー摂取不足と児が将来脂肪肝を発症するリスクの関わりについて」 第88回日本内分泌学会学術総会 4月24日 東京
2. 伊東宏晃：産科の視点により DOHaD に学ぶこととその限界 第4回日本 DOHaD 研究会学術総会 8月2日 東京
3. 幸村友季子：妊娠中の栄養摂取不足と児への長期的な影響について—胎児期低栄養マウスモデルを用いた肥満発症リスクの解析—第39回日本産科婦人科栄養・代謝研究会 8月21日 東京
4. 内田季之：近赤外光を用いた新しい胎児モニタリング—胎児の酸素動態をとらえる— 第38回日本母体胎児医学会学術集会 10月29日 別府
5. 金山尚裕：思いを形にする - 最新医療機器の開発 第41回全国助産師教育協議会全国研修会 3月6日 浜松

4) 座長をした学会名

1. 金山尚裕 第 67 回日本産科婦人科学会学術講演会 4 月 11 日 横浜
2. 伊東宏晃 第 67 回日本産科婦人科学会学術講演会 4 月 11 日 横浜
3. 金山尚裕 第 25 回日本産婦人科・新生児血液学会 6 月 6 日 東京
4. 村上浩雄 第 20 回生殖医学フォーラム 6 月 13 日 志摩
5. 金山尚裕 第 129 回関東連合産科婦人科学会学術集会 6 月 20 日 東京
6. 金山尚裕 第 51 回日本周産期・新生児医学会 7 月 10 日 福岡
7. 伊東宏晃 第 51 回日本周産期・新生児医学会 7 月 12 日 福岡
8. 金山尚裕 第 39 回日本産科婦人科栄養・代謝研究会 8 月 21 日 東京
9. 内田季之 第 33 回周産期医療研究会 9 月 26 日 秋田
10. 金山尚裕 第 31 回日本分娩研究会 10 月 15 日 盛岡
11. 金山尚裕 第 130 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 10 月 24 日 千葉
12. 内田季之 第 130 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 10 月 24 日 千葉
13. 金山尚裕 第 38 回日本母体胎児医学会学術集会 10 月 29 日 別府
14. 金山尚裕 第 23 回日本胎盤学会学術集会 11 月 6 日 東京
15. 金山尚裕 平成 27 年度秋季静岡産科婦人科学会学術集会 11 月 15 日 浜松
16. 村上浩雄 平成 27 年度秋季静岡産科婦人科学会学術集会 11 月 15 日 浜松
17. 金山尚裕 第 30 回日本生殖免疫学会総会・学術集会 11 月 21 日 熊本
18. 金山尚裕 第 15 回東海不妊内分泌研究会 1 月 30 日 浜松

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 金山尚裕 日本産婦人科学会 代議員
2. 金山尚裕 日本胎盤学会 理事
3. 金山尚裕 日本妊娠高血圧学会 理事
4. 金山尚裕 関東連合産科婦人科学会 理事
5. 金山尚裕 日本栄養代謝学会 理事
6. 金山尚裕 日本周産期新生児学会 理事
7. 金山尚裕 日本産婦人科感染症学会 理事
8. 金山尚裕 日本生殖医学会 代議員
9. 金山尚裕 日本母性衛生学会 評議員
10. 金山尚裕 日本母体胎児学会 幹事
11. 金山尚裕 日本産婦人科新生児血液学会 理事
12. 金山尚裕 中部不妊学会 評議員
13. 金山尚裕 静岡産科婦人科学会 会長
14. 金山尚裕 静岡県母性衛生学会 常任理事
15. 杉原一廣 日本産科婦人科学会 指導医
16. 杉原一廣 日本婦人科腫瘍学会 評議委員
17. 杉原一廣 日本胎盤学会 評議員
18. 杉原一廣 日本生殖医学会中部支部 評議員

19. 杉原一廣 日本産婦人科医会静岡県支部がん対策委員会 委員
20. 杉原一廣 静岡県治験ネットワーク支援倫理委員会 委員
21. 杉原一廣 日本産婦人科医会静岡県支部がん対策 委員
22. 杉原一廣 先端治療薬研究会 理事
23. 杉原一廣 静岡 CTC(Cancer Therapy Conference) 世話人
24. 杉原一廣 静岡サイコオンコロジー研究会 世話人
25. 杉原一廣 日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医
26. 杉原一廣 日本生殖医学会認定 生殖医療専門医
27. 杉原一廣 日本がん治療認定医機構 認定医
28. 杉原一廣 日本がん治療認定医機構 暫定教育医
29. 杉原一廣 日本婦人科腫瘍学会専門医制度規則指定修練施設 指導責任者
30. 杉原一廣 婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構 施設責任者
31. 杉原一廣 生殖専門医認定研修施設 指導責任者
32. 伊東宏晃 日本周産期・新生児医学会 評議員
33. 伊東宏晃 日本内分泌学会 代議員・評議員
34. 伊東宏晃 日本心血管内分泌代謝学会 評議員
35. 伊東宏晃 日本妊娠高血圧学会 理事
36. 伊東宏晃 日本胎盤学会 評議員
37. 伊東宏晃 日本 DOHaD 研究会 幹事
38. 伊東宏晃 静岡県産科婦人科学会 理事・学術部長・研修会実施委員会 委員長
39. 伊東宏晃 静岡県母性衛生学会 理事
40. 伊東宏晃 東海肺塞栓症研究会 幹事
41. 内田季之 近畿亜鉛栄養治療研究会 世話人

8 学術雑誌の編集への貢献

	国 内	外 国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	6 件	0 件

（１）国内の英文雑誌等の編集

- 金山尚裕：日本周産期新生児学会誌 編集委員長
- 伊東宏晃：J Obstet Gynecol Res. (ISSN: 4993-0711) 編集委員
- 伊東宏晃：Journal of Developmental Origins of Health and Disease (ISSN: 2040-1744) 編集委員
- 伊東宏晃：Medical Biochemistry (ISSN 1027-0256) 編集委員
- 伊東宏晃：静岡産科婦人科学会雑誌(ISSN 2187-1914) 編集委員
- 伊東宏晃：DOHaD 研究(ISSN 2187-2597) 編集委員

（２）外国の学術雑誌の編集

（３）国内外の英文雑誌のレフリー

J Obstet Gynecol Res. 6 回

9 共同研究の実施状況

	平成 27 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	2 件
(3) 学内共同研究	1 件

(2) 国内共同研究

1. 金山尚裕：胎児および子宮筋パルスオキシメータの開発（静岡大学）
2. 金山尚裕：羊水塞栓症の治療に関する研究（多施設共同研究）

(3) 学内共同研究

1. PDT の臨床応用に関する研究（医学分光応用寄附研究室）

10 産学共同研究

	平成 27 年度
産学共同研究	5 件

1. 金山尚裕：指接着型オキシメータの開発（アステム（株））
2. 金山尚裕：子宮、脳の非侵襲的酸素動態モニタリングの開発（浜松ホトニクス（株））
3. 金山尚裕：胎児心拍数細変動の自動解析法の開発（アトム）
4. 金山尚裕：腔内乳酸菌の研究（明治）
5. 杉原一廣：新規超早期診断の技術と方法（浜松ホトニクス（株））

11 受賞

(1) 国際的な授賞

(2) 外国からの授与

(3) 国内での授賞

1. 幸村友季子 第 67 回日本産科婦人科学会学術講演会 優秀演題賞受賞 平成 27 年 4 月
2. 熊澤理紗 第 129 回関東連合産科婦人科学会学術集会 若手優秀演題賞 平成 27 年 6 月
3. 上田めぐみ 第 130 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 若手奨励賞 平成 27 年 10 月

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 指接着型オキシメータの開発

従来のオキシメータは患者に装着するものであったが、発想を逆転し診察者の指に装着して任意の部位の酸素飽和度を測定する機器を静岡大学と共同で開発した。このオキシメータは医療者の指に装着する世界初のウェアブルオキシメータであり、触診の延長上で使用でき、医師の“第 6 感”になりうるもので医療の各領域に応用可能である。本オキシメータは機能検査オキシメータとして本年 1 月に医療機器として認可され発売されている。（金山尚裕）

2. 子宮内膜症の治療薬

子宮内膜症は、妊孕性を持つ生殖年齢の約 10～15%（約 230 万人）に発症する主要な産婦人科疾患で

あるにもかかわらず、治癒を目指す治療法がない。典型的な症状である月経困難症は QOL を著しく低下させ、さらに不妊症の原因となる。結婚年齢の上昇に伴う高齢出産の増加は子宮内膜症の増悪要因であり、日本の少子化傾向の観点からも重要な疾患である。また、年間の医療費は約 400 億円と膨大であり多方面から治療薬が切望させている。我々は、子宮内膜症の根治が望める分子標的薬剤をペプチド創薬の技術を駆使して開発した。本シーズは、“内閣府主導の日本版 NIH”（平成 27 年 4 月より国立研究開発法人 日本医療研究開発機構：AMED）に採択され、創薬支援を受けている。アカデミア発のシーズとして薬剤の最適化→前臨床試験へと研究・開発が進んでおり、革新的な薬剤として期待されている。（杉原一廣）

3. 抗がん剤の創薬

悪性腫瘍の細胞表面に発現する糖鎖抗原が、腫瘍の悪性度や生存率と相関することが明らかにされてきたが、糖鎖そのものを薬剤として癌を治療した報告はない。その主な理由は、複雑な糖鎖を簡単に合成できない技術面での課題がある。我々は癌細胞表面の糖鎖構造と血管内皮細胞表面に発現する糖鎖認識受容体の相互作用を解析する過程で、腫瘍新生血管内皮に発現する Annexin 1 特異的に結合する糖鎖模倣ペプチド「IF7」を同定した。IF7 と結合した抗癌剤は腫瘍にのみ集積し、さらに投与量を減量しても顕著な抗腫瘍効果を示す。また、血液脳関門（BBB）を薬剤が通過しにくいいため、脳転移や脳腫瘍は治療が困難である。ところが、IF7 を介する腫瘍新生血管のトランスサイトシス機構により BBB 通過が可能であるのみでなく、優れた脳腫瘍集積性を示すことが判明した。そこで、脳腫瘍に対する新規治療薬としても、劇的な抗腫瘍効果が期待できる。浜松医科大学では、さらに独自に IF7-タキソールを合成し、薬効試験を実施中である。（杉原一廣）

4. 精子活性化剤

我々は、ヒト精子尾部が多量の糖鎖で覆われ、尾部表面への抗体の結合を妨げていることを報告している。精子尾部を覆う多量の糖鎖を分解する目的でエンド-β-ガラクトシダーゼ(EBG)を添加したところ、精子表面の複合糖質が分解され、精子運動能が亢進することを見いだした。すなわち精子を EBG で処理すると、精子運動の情報伝達に関与する cAMP の増加とカルシウム流入が誘導されること。さらに、ヒト精子尾部に存在するポリラクトサミン糖鎖と相互作用する受容体は FGFR2 であることを明らかにして、精子運動の調節機構を分子レベルで解明した。この成果を応用し、「①精子運動の活性化」、さらに「②活性化された精子を用いて受精した受精卵の胚盤胞への到達率の改善」を目指した薬剤と方法を開発し、ヒト（①）とマウス（①、②）で効果を確認済である。現在、JST の支援を受けながら高度生殖医療（ART）のシーズとして実用化をめざしている。（杉原一廣）

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

1. 指接着型オキシメーターの開発及び製品化（金山尚裕）

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

15 新聞、雑誌等による報道

1. 杉原一廣：浜医大の子宮内膜症治療薬研究 AMED が事業採択 5 月 13 日 中日新聞

2. 杉原一廣：子宮内膜症治療薬 新開発 産科で唯一「日本版 NIH」採択 7月19日 静岡新聞
3. 伊東宏晃：妊婦栄養不足で子が脂肪肝 12月2日 静岡新聞
4. 伊東宏晃：妊婦減量で子ども脂肪肝に 12月26日 中日新聞（夕刊）
5. 伊東宏晃：妊婦の食事不足 子供が脂肪肝？ 12月27日 日本経済新聞
6. 伊東宏晃：妊婦減量で子供が脂肪肝に 異常タンパク質で炎症 東京新聞 12月26日
7. 伊東宏晃：妊婦減量で子供が脂肪肝に 異常タンパク質で炎症 西日本新聞 12月26日
8. 伊東宏晃：妊産婦の高血圧 自覚しにくく母子の命に直結 朝日新聞 2月15日
9. 金山尚裕：女性の病気や体調変化解説 3月8日 静岡新聞